

広野小学校
「学力向上実行プラン」

学習したことの定着率を高め、家庭学習や読書の習慣を育てる。

学力向上推進員 大下 真季
委員 校長 寺奥 幹生 教頭 堀井 正章 教務主任 立石美佐子

寺奥 幹生



(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況		具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	漢字を正しく読んだり、文章を読んで内容を把握したりする力は身につけてきている。基本的な四則計算や数量・図形についての基本事項は身につけている。	①漢字を正確に書き、計算を確実に解き、自ら見直そうとする。 ②既習の漢字を使い文章を正確に書こうとする。	①学期末の漢字テスト・計算テストで80点以上到達児童の割合を、漢字・計算とも80%以上にする。 ②既習の漢字を使い文章を正しく書き、自ら見直しができるようにする。			
	漢字を正確に書けなかったり、計算間違いをしてしまうなどの細かいミスがある。また、時間がたてば忘れてしまう児童がいる。 図や資料、複数の文章を読み取り、それをもとに考え・判断する力が弱い。	〇学習の課題に、漢字学習を取り入れたり、既習の漢字を表現物や生活の中で活用できるようにすることで、漢字力の向上定着を図る。 〇単元末テストの中で間違いの多かった計算問題を復習し、計算力の向上と基本的な知識の定着を図る。 〇定期的にノートチェックを行い、必要に応じてコメントを記入し、正確な文章を書く能力の育成を図る。	〇間違いの多かった漢字・計算問題や、既習の問題を繰り返し実施した教員の割合を100%にする。 〇日記・作文指導やノート指導を定期的に行う教員の割合を100%にする。		評価	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況		具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	ボイストレーニングや音読学習を毎日行い、はっきりした発音で読めたり、授業や行事等の発表でも自分の考えを伝えたりすることができるようになってきた。	①読解力を高め、活用力を身につけ表現しようとする。 ②調べた事実や分かったことに自分の考えを付け加えて文章を書き、進んでみんなに伝えようとする。	①国語・算数の読解力テストで、国語は80点以上到達児童の割合を80%以上に、算数は70点以上到達児童の割合を80%以上にする。 ②ノートに自分の考えや授業後の振り返りを書くことができ、進んで伝えることができるようにする。			
	読解については個人差が大きく、読み取りの仕方や方法など、基本を繰り返し指導する必要がある。 自分の考えを整理して人に伝えたり、理由を説明したりする力が十分ではない。友達の考えや意見を聞いて自分の考えに生かすことが不十分である。	〇読む活動を推進するために、ボイストレーニングの継続と内容の工夫、全校での音読集会を継続的に行う。 〇文章を絵や図、言葉等で表現する活動を積極的に取り入れ、キーワードや文章の要点をつかめるようにする。そのため、授業で思考の過程を大切に文章を絵であらわしたり、絵を文章にしたりして習慣づけを図る。 〇深まりのある話し合いをするため、話し合いの活用し、自分の考えを人に伝えたり、理由を説明したりする機会を多くとる。また、少人数学級のため、他学年や他校との合同学習等での話し合い活動に留意する。 〇体験(校外)学習や交流学習を積極的にを行い、人と人とのつながりを深めるとともに、活用力の素地を培う。	〇ボイストレーニングや音読を推進した教員の割合を100%にする。 〇読み取るための工夫をしたり、言語活動を取り入れ話し合いの工夫をしたりして、授業を進めた教員の割合を100%にする。 〇児童の思考の過程を見取り、話し合いに生かしたり、ノート指導を行ったりする教員の割合を100%にする。 〇活動の感想やお礼の手紙などを毎回書かせる。		評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況		具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	進んで課題や作業に取り組むことができ、宿題も忘れず行っている。 読書をするたびに記録することにより、自分の達成状況を知ることができ、読書賞をもらうことにより意欲的に取り組むことができた。	①意欲的に授業に臨み、自ら考えて課題を解決しようとする。 ②学年に応じた家庭学習の時間を確保し、行おうとする。 ③学年に応じた本を選び、1週間に60分以上の読書活動を行おうとする。	①進んで考えを発言する児童の割合を80%以上にする。 ②目標の家庭学習の時間を達成した児童の割合を、90%以上にする。 ③生活リズムチェックにより1週間に60分以上読書ができた児童の割合を80%以上にする。			
	指示されたことは行うことができるが、自ら考え進んで新しいことに取り組む態度は不十分である。 学童で宿題をする児童が多く、自宅で集中して学習する習慣が身につけていなかったり、学習時間の確保ができていなかったりする児童がいる。 家庭での読書習慣が少ない児童がいる。	〇学習の課題や進め方を明らかにし、児童が見通しを持ち、主体的・対話的で深い学びのある授業展開を心がける。 〇「学習の手引き」を活用して家庭との連携を図り、家庭学習習慣の継続の必要性和家庭学習の時間の確保を保護者に働きかける。 〇週1回または2回の15分読書の時間を確保し、1日10分以上の読書および週末の家庭での読書を推進する。	〇学習課題の提示と学習したことの振り返りを毎時間行い、児童が課題解決する授業を展開する教員の割合を100%にする。 〇家庭学習課題のチェックにより、家庭学習の習慣を継続する必要性和学習時間の確保について、働きかけを行った教員の割合を100%にする。 〇「生活リズムチェック」や宿題、声かけにより、1日10分以上の読書および週末の家庭での読書を推進できた教員の割合を100%にする。		評価	次年度における改善事項

平成30年度 学力向上ロードマップ

